

不

甲府市は市職員による不祥事が後を絶たないとして、職員の危機管理や法令順守の意

不祥事防止対策会議の設置は樋口市長の発案。市長を議長とし、幹部職員で構成する方向で検討している。会議で協議する内容は未定だが、マ

設が、消防法で義務付けられた火災報知器などの定期点検を怠っていたことが25日、県監査委員事務局が発表した2014年度下期の定例監査結

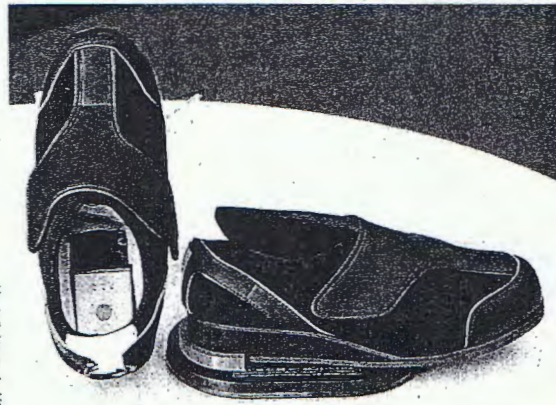
摘を含む計12件を、法律違反など著しく不適切な事務処理とされる「指摘事項」とした。同法は半年に1回、火災報知器や消火器など機器の点検

一方、上野原高では臨時職員への賃金の支払いが規定より最大約3カ月遅れるミスが判明した。同校は臨時職員1人を昨年4月中旬～5月中旬、同7月の2回に分けて計約2カ月採用。規定では勤務

県営住宅補修工事の完了が14年度にずれ込んだが、職員が十分な確認をせずに13年度中に完了したとの報告書を提出。同年度内に完成した扱いで会計処理をしていた。〈報道部〉

認知症の徘徊 靴で「見守り」

認知症高齢者が徘徊した際の早期発見につなげようと、コンピュータ機器の販売などを手掛けるシステムインナカゴミ(中央市山之神、中込裕社長)は、靴の中に衛星利用測位システム(GPS)装置を組み込んだ「見守りシューズ」を開発した。パソコンやスマートフォンから位置を測定でき、4月の発売を予定している。〈三井将也〉



システムインナカゴミが開発した見守りシューズ
＝中央市山之神

中央の会社開発 GPSで位置確認

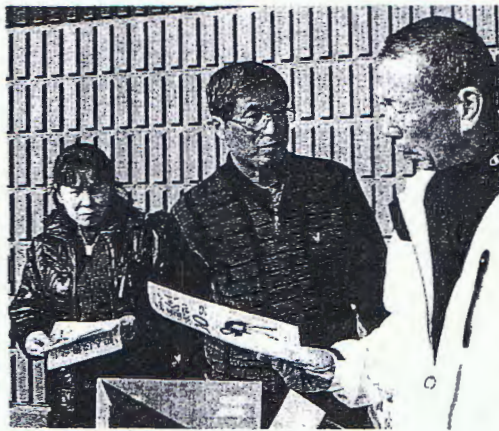
見守りシューズは、靴底のかかと部分に埋め込むように小型GPS装置を取り付けた。見た目は市販されている靴と変わらない。県外の靴製造メーカーと連携し、高齢者も履きやすい軽量の靴を作った。

同社によると、GPS装置は充電式で、1回の充電で最長400時間使用可能。利用者の手間を省くこと、靴を乗せるだけで充電できる充電パッドを採用した。また、電池残量が少なくなるとメールで通知する機能も付いてい

る。電池や靴自体が消耗するため、1回の購入で使用できるのは2年間となっている。位置情報はパソコン、スマートフォン、タブレット端末から検索できる。利用期間中の検索回数に制限はない。県によると、2014年4月1日現在の県内の認知症高齢者数は2万4263人で高齢者全体の10・6%を占める。前年より約1千人増えている。認知症高齢者は増加傾向にあるという。問い合わせは同社、電話055(230)7611。

が、持たずに出掛けてしまうことも多い。しかし靴であれば、はだして徘徊していれば周囲の人が異常に気づいて見つけてくれることが多く、履いていれば位置情報を調べることができるため、「効果的」(同社)だという。価格は2年間の利用で6万円(税抜き)。月2500円の24回払いもできる。サイズは22～27センチの6種類用意している。

携帯電話や衣類にGPS装置を取り付けた製品はある



チラシを配り、情報提供を呼び掛ける平野富夫さん(中央)と甲斐双葉さん(左)＝甲斐・ラザウォーク甲斐双葉

甲斐・ひき逃げ死亡事故4年 佐賀から父母訪れ 情報提供呼び掛け 甲斐市志田の国道20号で2011年、会社員平野隆史さん(当時24歳)がひき逃げされた死亡した事件から4年がたった25日、佐賀県小城市の父富夫さん(64)と母のり子さん(61)らが事故現場を訪れ、通行人に情報提供を呼び掛け

た。両親は神奈川県厚木市に住む隆史さんの兄慎也さん(35)と、ラザウォーク甲斐双葉でチラシを配った後、現場に献花した。富夫さんは「事件を風化させたくない。情報提供の呼び掛けを続けたい」と語った。隆史さんは11年2月25日午前3時50分ごろ、国道20号の路肩で倒れているのを発見され、2日後に死亡した。同僚の送別会の後、自宅近くでひき逃げされたこととみられる。両親は最高500万円の私的懸賞金を設けて情報提供を求めているが、警署によると、最近2年間に寄せられた情報は2件で事件とは結びつかず、捜査は難航している。

チラシを配り、情報提供を呼び掛ける平野富夫さん(中央)と甲斐双葉さん(左)＝甲斐・ラザウォーク甲斐双葉